



もっと見ていたかった～子どもたちのオーケストラけん王!

885

人の参加

参加されたみなさん、意見を聞き上げてくれたことみなさんほんとうにお疲れさまでした。
今後も学童保育の発展をめざしてがんばりましょう!

子どもの見方が変わった



記念講演

豊かな子育て・学童保育をつくるために大切なこと

講師 長湊真美子氏
(大阪大谷大学)

アンケートより感想

吹田市(保護者)
子どもの発達に目を向けているように、自分の子も差して子ども(我が子)をみているな～と反省...
早い時期、幼児期、学童期、どの時期もあって子どもは言葉がなから伸びていくのだな～と感じる姿を否定せず受け入れられるじのゆとりを持って子どもと接したいです。

堺(保護者)
「何かには非難が(ように)することか成長」とう足えられる視点をもらったことで、うちの子どもたちにとっては気持ちの楽になるだろうなと思いました。
すごく難しいけど、マイナスに見える姿を否定せず受け入れられるじのゆとりを持って子どもと接したいです。

保護者のみなさん、指導員のみなさん共通して、『発達目を見てよかったです!』という意見が多かったです。
集会では、子どものおもしろさ(発達や心理)を学べて楽しかったと言う大人が多数いた。
モヤモヤスッパソロ

子どもの世界に入りこみ 子どもとともに生活をつくる



分科会③ 障がいのある子どもの理解
講師: 湯浅恭正氏(中部大学)



吹田市(指導員)
「できない」ことを「できるように」ということばかりに目がいきがちだったけれど、子どもの世界に入りこみ、子どもとともに生活をつくり「楽しいこと」を大切にすると「障がい」特に子どもたちに必要だと改めて感じました。



分科会④

あそびは大事に決まってる

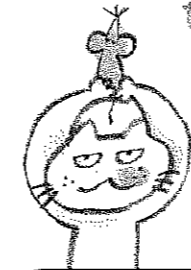
安野市(保護者)
遊びも含め、子どもが主体として、子ども同士がコミュニケーション能力を培って、(他者に気付く)他者とかがわりあう中で、たくさんの経験をしている。人格形成の土壌、そのルールが遊びでなると思いました。

守口市(保護者)

いろいろな事例の紹介、先生のお話、共に負の責任になりました。子どもには責任感をぶつけるのではなく、どんな言葉も聞いていいます

子どもが主体者

昨年は大阪で全国研修がPA1催されました。今年も愛知県です。大阪からもたくさん参加しましょう!



とき 10月29日(土)
30日(日)

今からご予約をお願いたします

分科会後記

人間っておもしろい!
今回の集会で土足厳禁は体育館のみとなっていた。廊下や各部屋は土足のままで良かったわけたが、一転三転し、玄関で靴を脱いで下さい!と誘導してしまうハプニングがあった。
真相はこうだ。
玄関から廊下へは小さな段差があり、日本人なら脱いでしまう状況。前の方が脱いでいたら、習って自分も脱ぐ。ためらうこと無い。アナウンスまで加えてしまった。一時、実行委員が慌てて「土足でいいよ!」と伝えたが、すでに気を効かせた学校工事の作業員さん今回の集会には無関係者が綺麗に廊下を掃除してくれていた。これは土足ではまずいでしよう...と気を使い脱いで貰うことになったのでした。習慣や相手の心を読む力、気遣い、今回の要因は、人間の大人だからこそである。
集会では、子どものおもしろさ(発達や心理)を学べて楽しかったと言う大人が多数いた。
(I・F)